



## 「投資動向に関するアンケート」調査結果

<第4回調査>

2009年10月1日

### 【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは、口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施することになりました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるとい形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて、遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の国政選挙など、市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

### 【調査実施期間】

2009年9月17日(木)10:00~2009年9月24日(木)10:00

※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

### 【調査対象】

(株)外為どっとコムの『ネクスト総合口座』、『FXトレード口座』のいずれか一方、または両方に口座を開設のお客様層

### 【調査方法】

(株)外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。

今回の有効回答数は、5360件。

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

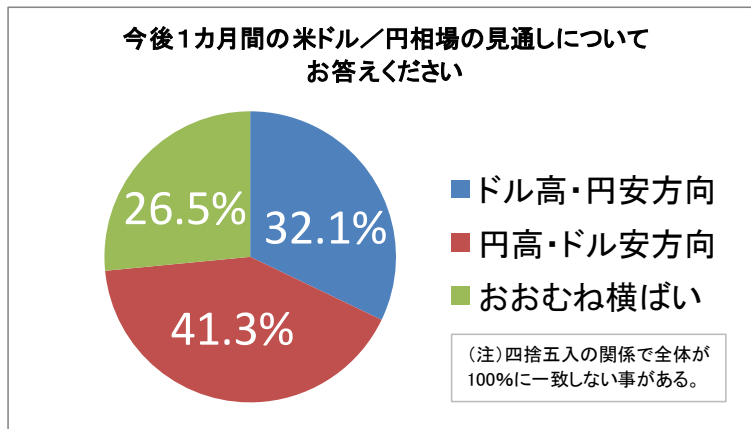
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2009 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第4回調査結果略報:ドル円予想DIは円高方向に転換】

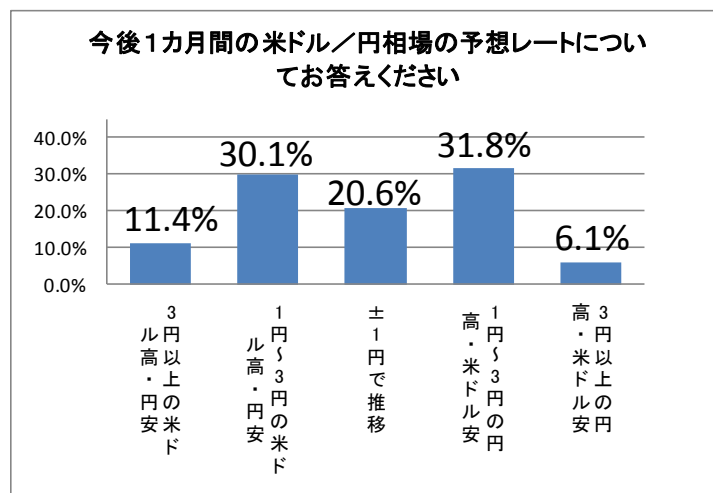
問1:今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

今後1カ月間のドル円相場見通しについては、「ドル高・円安方向」と答えた割合が32.1%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合が41.3%となった。この結果、「ドル円予想DI」は▲9.2%ポイントと、前回の+6.0%ポイントから一転して円高方向に変化した。調査期間中のドル円相場は、シルバーウィーク中にかけて92円台半ばまで上昇した後、90円割れを目指す円高の前兆が表れた潮目の端境期であったが、結果的にその後の90円割れを予見していたような結果になっている。調査期間中に鳩山政権が発足して「円高是認観測」が強まっていたことの影響もあるだろうが、改めて個人の相場観の確かさを再認識させる結果になっている。



問2:今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

今後1カ月間のドル円相場の予想レートについては、「1円～3円程度の円高」と答えた割合が31.8%と最も多く、「1円～3円程度の円安」予想が30.1%、「±1円以内」が20.6%、「3円以上の円安」が11.4%、「3円以上の円高」が6.1%という順番になった。問1に示された回答結果との整合性に欠ける面もあって解釈は難しいが、前々回調査、前回調査に引き続き、3カ月連続でヒストグラムの形状が「逆W字型」の特徴を維持している。問1の結果と合わせて解釈すると、方向感としては円高の匂いを感知しつつも、明確な方向感への自信を欠いた状況が表現されている。

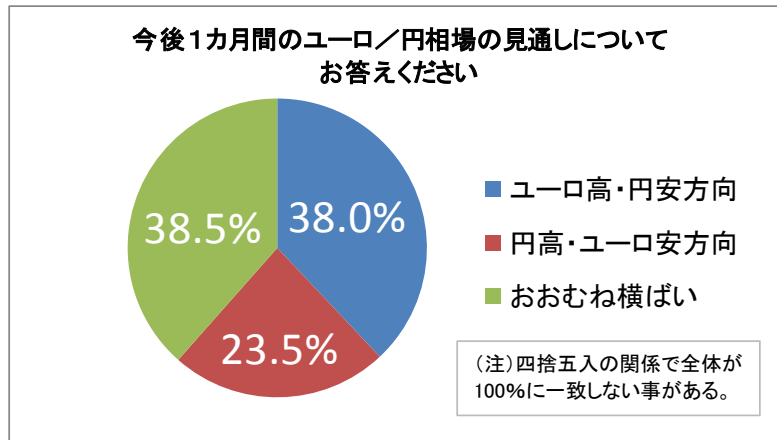


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2009 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

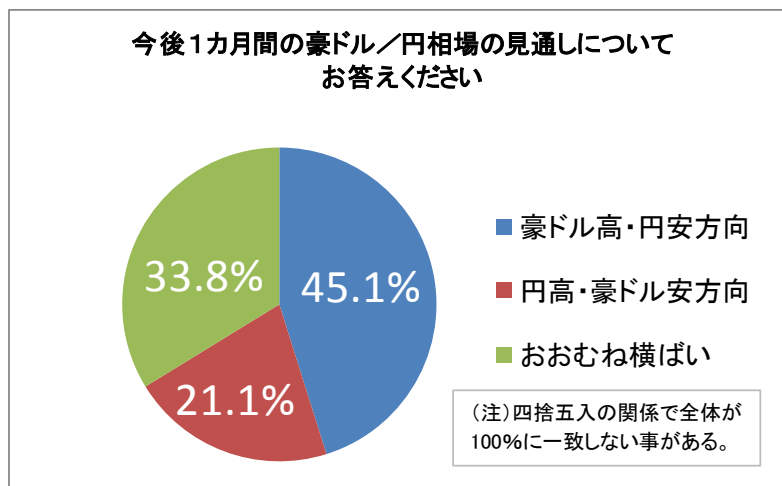
**問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください**

今後1カ月間のユーロ円相場見通しについては、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が**38.0%**であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が**23.5%**となった。この結果、「ユーロ円予想DI」は**+14.5%**ポイントと、前回と同水準となった。調査期間内のユーロ円相場は、ドル円相場同様にユーロ高からユーロ安への転換期にあったが、個人投資家のユーロ高予想は変化しなかったようだ。ただし、前月との比較では、ユーロ高予想、ユーロ安予想ともに**3.8**ポイント減少し、横ばい予想が**7.6**ポイントも増加しており、方向感を持たない向きも増加しているのが興味深い。



**問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください**

今後1カ月間の豪ドル円相場見通しについては、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が**45.1%**であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合が**21.1%**となった。この結果、「豪ドル円予想DI」は**+24.0%**ポイントと、前回調査の**+27.4%**ポイントから若干ながら低下した。調査期間中の豪ドル円相場は**80**円界限の高値圏で一進一退の相場展開にあったものの、依然として強気派の勢力が優勢な状況が続いている。ただし、過半数が豪ドル強気だった前回調査に比べると、今回は強気派の割合が45%台に減少しており、高値警戒感が微妙に高まる兆候も認められる。



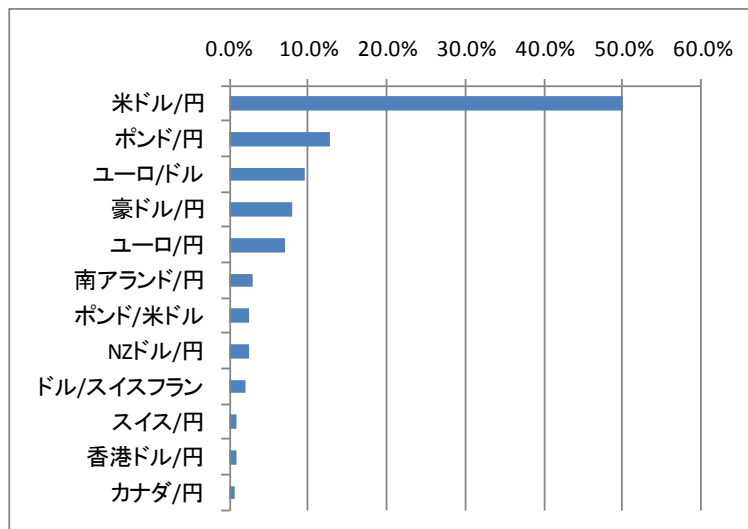
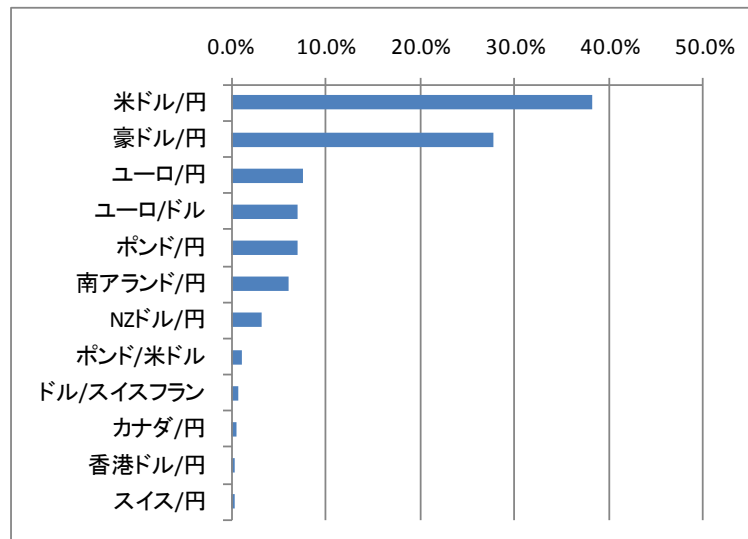
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2009 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

今後注目している通貨ペアについて尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位米ドル円(38.2%)、2位豪ドル円(27.7%)と今回は首位が入れ替わった。以下、3位ユーロ円(7.5%)、4位ユーロドル(7.1%)、5位ポンド円(7.0%)の順となっている。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位が断トツで米ドル円(50.0%)となっており、以下、2位ポンド円(12.9%)、3位ユーロドル(9.5%)、4位豪ドル円(8.0%)、5位ユーロ円(7.1%)の順で続いている。

米ドル円は買いでも売りでも注目される通貨の地位を維持しており、入手可能な情報量の多さなどから、強気/弱気の相場観とは無関係の「売買の対象」として見た場合、最も人気の高い通貨になっている。一方、「買い」注目度で常に上位に位置する豪ドル円は、「売り」での注目度が相対的に低いという特徴を維持している。先述の「逆張り心理」に加え、「先進国通貨の中で最も高い短期金利水準の魅力」などが影響しているのかもしれない。なお、今回調査ではユーロドルの順位が前回に比べて売り買いともに2つ上がり、ユーロへの注目度が上がったことも特徴だった。

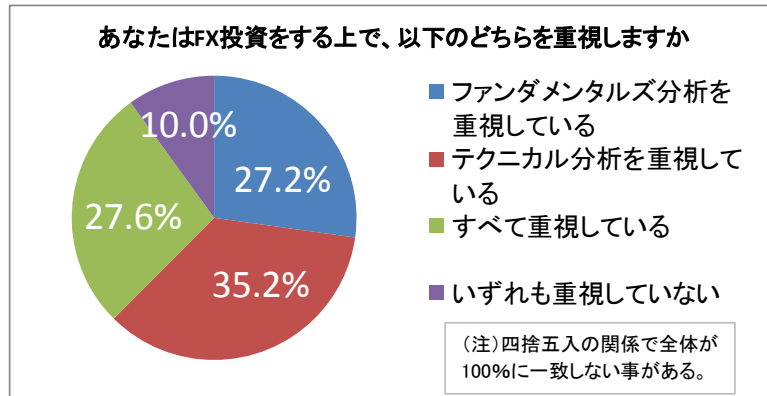


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2009 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

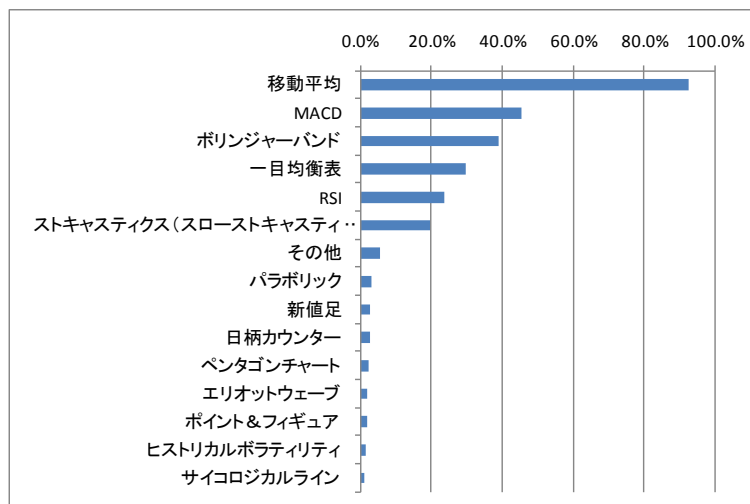
**問6: あなたはFX投資をする上で、以下のどちらを重視しますか?**

「FX投資の際に重視する分析手法」については、「ファンダメンタルズ分析を重視する」と答えた割合が27.2%であったのに対し、「テクニカル分析を重視する」と答えた割合が35.2%と、テクニカル分析を重視する投資家の割合の方が高かった。「すべて重視している」との回答割合が27.6%、「どちらも重視していない」が10.0%であった。過去3回の調査結果と比較してみた場合、回答割合に目立った変化は生じていない。今後相場環境が急激に変化する局面において、個人投資家の分析手法の好みが変わるか否かが注目される。



**問7: テクニカル分析では何を主に活用していますか?**

「テクニカル分析で主として活用している手法」について複数回答可として尋ねたところ、「移動平均(92.8%)」が最も高く、「MACD(45.5%)」、「ボリンジャーバンド(38.9%)」、「一目均衡表(29.5%)」、「RSI(23.7%)」、「ストキャスティクス(19.6%)」の順番で並んでいる。個人投資家に人気のテクニカル分析手法の顔ぶれはあまり変わっておらず、今回も一番人気は移動平均分析だった。ただし、いわゆる「トレンド系」と「逆張り系」に分けてみた場合、今回はボリンジャーバンドやRSIなどの逆張り系の人気は低下する一方で、MACDなどのトレンド系の順位が上昇しており、秋口相場では若干ながら逆張り志向が減退したかのように見受けられる。

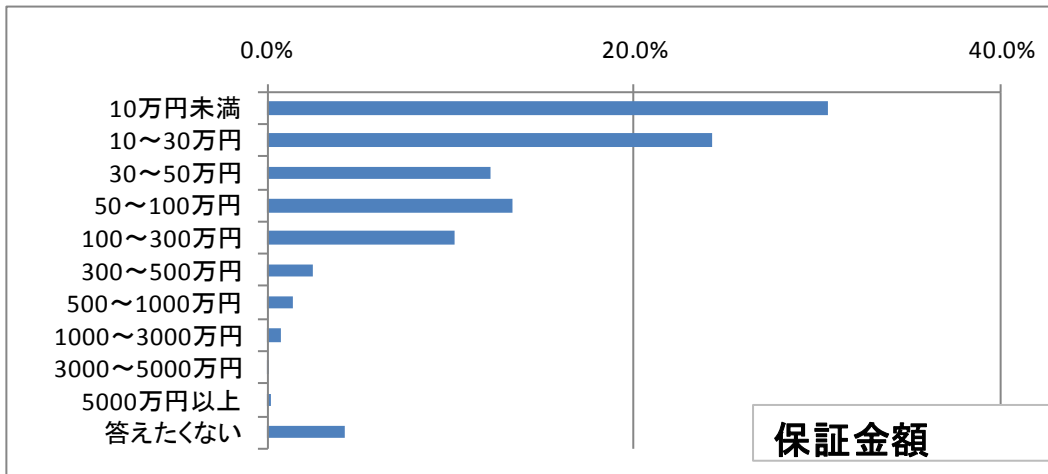


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2009 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

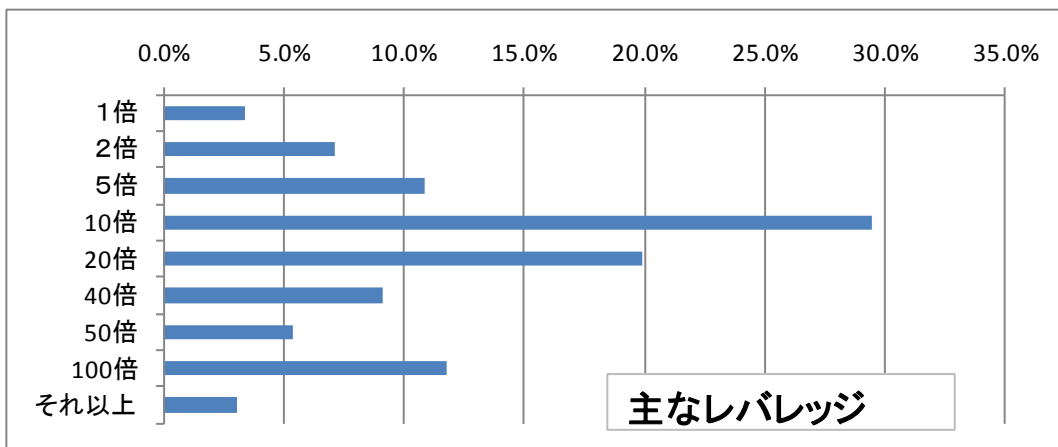
**問8: FX取引の際の保証金の額についてお答えください**

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、10万円未満と答えた割合(30.7%)が最も多く、10~30万円(24.3%)が2番目に多かった。回答者の過半数以上は、30万円以下に分布しているのが特徴だ。以下、第3位は50~100万円(13.4%)、4位は30~50万円(12.2%)、5位100~300万円となっており、微妙な順位の入れ替わりはあるものの、回答割合の順番は基本的に保証金額の大きさと反比例の関係にある。不特定多数の小口投資家に分散しているFX投資家層のすそ野の広さを再確認させる内容になっていると言える。



**問9: FX投資の際、主に何倍のレバレッジを活用していますか？**

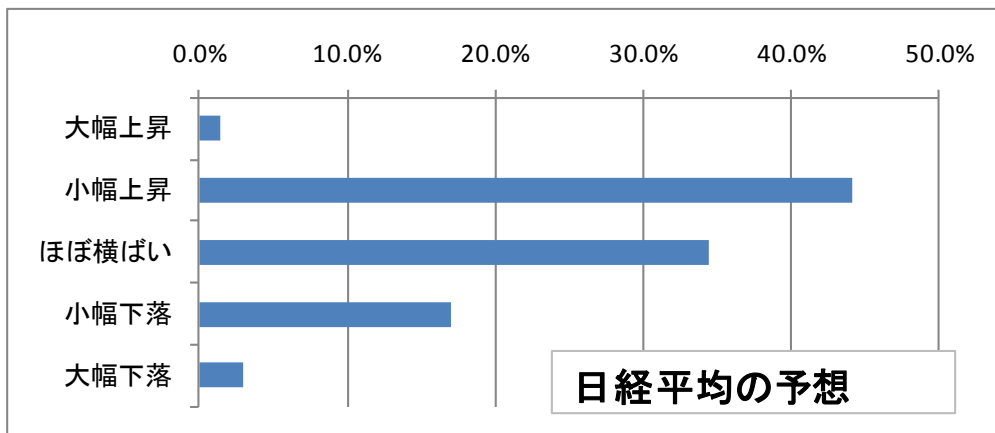
FX投資の際に主として活用しているレバレッジについて尋ねたところ、10倍と答えた割合(29.5%)が最も多く、20倍(19.9%)が2番目に多かった。これに次ぐ3位が100倍であったが、その比率は11.8%であり、「それ(100倍)以上」と答えた3.1%を合わせても15%に満たなかった。外国為替保証金取引について、高レバレッジの投資家層の「武勇伝」が一部の媒体で喧伝されることもあるが、今回のアンケート調査に答えた個人投資家の7割以上は20倍以下の倍率を主として活用している。上記問8の回答結果と合わせ、比較的堅実なFX取引の実態が示唆されている。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

### 問10: 今後1カ月間の日経平均株価の見通しについて

「今後1カ月間の日経平均株価の見通し」について尋ねたところ、「小幅上昇」が44.2%と最も多く、以下、「ほぼ横ばい(34.5%)」、「小幅下落(16.9%)」、「大幅下落(3.0%)」、「大幅上昇(1.4%)」の順番になった。調査期間中は本邦のシルバーウィークの連休を挟んでいたが、連休前後の日経平均株価は上昇基調で推移しており、それが今回の調査結果に反映されている可能性がある。ただし、秋口以降の傾向として、為替市場全般には資源国通貨が上昇気味で推移するなど、世界景気の底入れ期待とともにリスク許容度改善の痕跡も認められ、それが日本株市場への見方にも投影されている可能性が高い。



### 【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第4回目となりました。まだ開始後1年未満ということもあり、前月との対比での時系列比較は徐々に可能になり始めていますが、前年同期との比較に十分な調査結果の蓄積は進んでおりません。このため、統計分析に深みを持たせるために必要不可欠な長期間の時系列比較を提示することはまだできませんが、今後、毎月定点観測で実施する調査結果の蓄積が進むにつれて、DIの時系列比較等から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などの把握も可能になってくることが期待されます。

また、9月18日に公表した臨時アンケート調査「新内閣発足がドル円相場に与える影響について」のように、時宜に応じて市場で注目されているトピックをテーマにした「号外版」も、これから適宜公開していく予定です。

加えて、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年春先以降に公表する「年次白書」で紹介する予定です。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2009 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## 【付表:主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル／円			ユーロ／円			豪ドル／円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2009年	6月	21.0	35.2	-14.2	38.4	27.2	11.2	48.8	23.7	25.1
	7月	34.6	33.6	1.0	40.2	28.2	12.0	45.5	26.3	19.2
	8月	36.3	30.3	6.0	41.8	27.3	14.5	50.7	23.3	27.4
	9月	32.1	41.3	-9.2	38.0	23.5	14.5	45.1	21.1	24.0
	10月									
	11月									
	12月									
2010年	1月									
	2月									
	3月									
	4月									
	5月									
	6月									
	7月									
	8月									
	9月									
	10月									
	11月									
	12月									
	1月									
	2月									
	3月									

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2009 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com